

報告第13号

令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について（概要）

令和7年10月29日付けで公表された令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について報告すること。

令和7年12月25日提出

山陽小野田市教育委員会  
教育長 長友 義彦

# 令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果

学校教育課

【調査対象】山陽小野田市立小・中学校19校(小学校12校・中学校7校〔分校含む〕)

小学生2,879名 中学生1,503名 合計4,382名(昨年度)

【調査対象期間】令和6年4月1日～令和7年3月31日

## 1 暴力行為(1000人あたりの発生件数)

	R5	R6
国	8.7	10.4
山口県	7.0	9.9
山陽小野田市	15.8	13.2

	R5	R6
小学校暴力行為	22	33
中学校暴力行為	49	25
暴力行為合計	71	58
小学校発生率	7.3	11.5
中学校発生率	33.6	16.6

### 【○成果・●課題】

○中学校の暴力行為の減少

生徒間暴力(37件→20件)・器物破損(13件→2件)

●小学校の生徒間暴力の増加(20件→30件)

中学校の減少により、市としては改善傾向であるが、小学校の増加が要因となり依然として国・県より高い水準にある。

### 【要因等】

○中学校における落ち着いた学習環境の醸成や発達支持的生徒指導による衝動的な行動の抑制

●複数回の暴力行為を行った児童が複数いることが件数増加の主な要因となっている。

## 2 いじめ(1000人あたりの認知件数)

	R5	R6
国	57.9	61.3
山口県	32.0	31.7
山陽小野田市	30.1	36.3

	R5	R6
小学校認知件数	81	103
中学校認知件数	54	56
認知件数合計	135	159
小学校認知率	26.7	35.8
中学校認知率	37.0	37.3

### 【○成果・●課題】

○日常的な衝突が83.6%(133件)であり、芽が小さいうちにいじめとして積極的に認知し対応

○3か月後の解消率が87.4%(139件)

●小学校は遊びの延長・悪ふざけ、言葉の暴力が多い

●小学校高学年～中学校ではSNSトラブル

### 【要因等】

○積極的な認知・対応に加え、発見後の指導や人間関係の調整が効果的に機能し、解消率の高さに繋がっている。

●小学校では、ごっこ遊びのエスカレートや過度なスキンシップ、身体特徴や失敗の揶揄、人格否定といった暴言、仲間外れ等の排他と同調のような小学生特有の状況が主な要因として挙げられる。

●SNSについては、端末利用の広がりや目の届かない所で行われることによる拡散や発見の遅れが挙げられる。

## 3 不登校(1000人あたりの出現率)

	R5	R6
国	37.2	38.6
山口県	37.4	38.3
山陽小野田市	35.7	33.8

	R5	R6
不登校児童	65	58
不登校生徒	95	90
不登校児童生徒数	160	148
小学校出現率	21.5	20.1
中学校出現率	65.2	59.9

### 【○成果・●課題】

○3年連続の増加が、わずかながら減少に転じた。

●学年が上がるにつれて増加しており、小学校から課題を抱えている子に加え、中学校では様々な理由や背景を抱えた新規の不登校が積みあがってきている。

### 【要因等】

○児童生徒に寄り添った対応や多様な学びの場の提供

●不登校の要因は様々であるが、調査報告では、メディアコントロールを含めた生活習慣の乱れや環境への不適応(人間関係含む)、このほか、無気力や漠然とした不安、はっきりとした原因がないといった理由が挙げられている。

### 【今後の取組等】

発達支持的生徒指導に基づき、児童生徒に寄り添った心理的安全性の高い学校・学校づくりを推進していく。

### ○スクールワイドPBS

(ポジティブ行動支援)

○脱教室マルトリートメント

○学びのユニバーサルデザイン

○教育支援センター「ふれあい相談室」

○校内教育支援センター(中:ステップアップルーム 小:やすらぎルーム)